

レポートの対象インスタンスがLinuxの場合の仕様は以下となります。

Windowsと異なり、以下の帳票は対象外となります。

- 108. プロセス詳細情報
- 109. ディスククォータ情報
- 110. アプリケーションログ情報 ※Linuxでは、テキストログを対象したLinuxテキストログ情報で代替します。
- 111. システムログ情報
- 112. セキュリティログ情報
- 113. セキュリティログ詳細

下記の表で、「帳票名」に(Linux専用)と記載のないものはWindowsと共用のデザインとなりますので差異、概要も同じ内容となります。
501_サーバー診断レポート以外の各帳票のヘッダーに出力される対象インスタンスは監視先インスタンス名になります。

■ 仕様変更/機能改善 ■

別紙「BOM7SR1 レポートオプション出力仕様」の仕様変更/機能改善を参照ください。

■ 注意・制限事項 ■

以下の帳票で制限があります。

- 505_ハードウェア情報 Linux 6.xでは、「haldaemon」を起動することで出力が可能になります。
Linux 7.xではOpenLMI(tog-pegasus,openlmi-tools/パッケージ)を別途インストールする必要があります。
https://access.redhat.com/documentation/ja-JP/Red_Hat_Enterprise_Linux/7/html/System_Administrators_Guide/sect-OpenLMI-

Install.html

監視インスタンスが作成済みの場合、BOM7SR1へのバージョンアップ後にモニタレットの更新が必要です。

その他、別紙「BOM7SR1 レポートオプション出力仕様」の仕様変更/機能改善を参照ください。

帳票名	概要
501_サーバー診断レポート (Linux専用)	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワーク診断結果の表に、平均値/最大値を出力します。 ・診断は最大値のみが対象で、1Gの帯域を基準にしています。
502_過去比較情報 (Linux専用)	<ul style="list-style-type: none"> ・前々回、前回、今回の3回分に相当する過去に監視したデータがない場合、右づめで出力します。 ・前々回のデータがない場合、右欄から前回、今回と出力します。(前々回が空白で前回、今回にはなりません) ※表に出力される各値は下2桁、各グラフ(%以外)のY軸は下4桁まで出力します。
503_詳細グラフ情報(横)	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフ横軸の期間を1週間単位で出力します。 ・期間が1週間以内の場合、期日が出力されない場合があります。タイトルにある「期間」で期日を確認してください。 ・グラフの注意しきい値、危険しきい値の線は、その監視項目の値が存在する期間で、設定された値で出力します。 ※Y軸の目盛値により、グラフの描画域がX軸方向に拡大/縮小と変化します。 この変化によりグラフ域に縦縞(棒グラフにおける隙間)が発生することがあります。
503_詳細グラフ情報(縦)	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフ横軸の期間を1週間単位で出力します。 ・期間が1週間以内の場合、期日が出力されない場合があります。タイトルにある「期間」で期日を確認してください。 ・グラフの注意しきい値、危険しきい値の線は、その監視項目の値が存在する期間で、設定された値で出力します。 ※Y軸の目盛値により、グラフの描画域がX軸方向に拡大/縮小と変化します。 この変化によりグラフ域に縦縞(棒グラフにおける隙間)が発生することがあります。
504_システム基本情報 (Linux専用)	(記載事項はありません)
505_ハードウェア情報	<ul style="list-style-type: none"> ・2ページ以降、ヘッダーは繰返しません。
506_ソフトウェア情報	<ul style="list-style-type: none"> ・2ページ以降、ヘッダーは繰返しません。
507_ハードウェア・ソフトウェア差分情報	(記載事項はありません)
510_Linuxテキストログ情報 (Linux専用)	(記載事項はありません)